



ユニバーサルデザイン

校長 伊藤 栄司

私は小さい頃から音に敏感で、子どもの頃は時計の音が気になって眠れなかったり、ちょっとした物音で目が覚めてしまったりしていました。周囲からは「気にしなければいい。」と言われながら育ってきました。

教員になっても椅子を引きずる音や子どもが発する突然の大声等はとても気になりました。その反面、授業の流れを左右するような鋭いつぶやきが聞こえたり、教室の端で友達の悪口を言っている声が聞こえたりして、この職業にとって悪くはない力だと思うようになりました。

それぞれの特性

きちんと調べたことはないのですが、本当によく聞こえる耳なのかはわかりませんが、兄や妹にはこの特性は現れなかったもので、兄弟とも周りとも違う感覚なのだと思います。見え方や聞こえ方、感じ方等は誰もが同じと考えがちですが、実際には人それぞれに違います。

例えば私のように音が気になる人にとっては、学習や仕事になかなか集中できず気が散るので静かな環境が必要です。また、視覚的に色や物の形の見え方が違う人にとっては、見えやすい色や形を用いたものがが必要です。

ユニバーサルデザイン

教室では、様々な感じ方をする子どもが楽しく学習を進められるようにユニバーサルデザインの考え方を基本に環境を整えています。ユニバーサルデザインの考え方は、障害の有無や度合いに関わらず「できるだけ多くの人が利用できるようにデザインすること」と定義されています。※

お茶の水小では黒板周りをすっきりさせるために、黒板横の棚にカーテンをつけたり黒板上のスペースには何も貼らなかつたりする等の工夫をしています。また、黒板全体が上下するので踏み台を使わなくても高い位置に字を書くことができます。校舎も全体的に段差がない設計になっていますし、扉の取手が縦に長くなっているのも身長を問わず車いすの方でも使いやすくなっています。

さらに、授業の中でも、学習の流れを最初に示し安心して学びを進めるようにしたり、今、どこを学んでいるのか提示したりします。プリントの文字や色使いなども全ての人にとって見やすく、わかりやすくなるように工夫をしています。

世界人権デー

12月10日は「世界人権デー」です。全ての人が人権や性別などで差別されないことを定めた「世界人権宣言」※が国際連合で採択された日です。日本を含め世界ではまだまだ病気や障害、人種や性別などによって様々な「差別や偏見」が残っています。ユニバーサルデザインの考え方を広め人々の間にある「違い」を「同じ」に変えることで、誰もが快適に暮らせる社会、「差別や偏見」のない社会の実現を目指します。

※アメリカノースカロライナ州立大学ロナルド・メイス氏によって提唱される。

※1948年(昭和23年)12月10日に第3回国際連合総会で採択されたことを記念している。